

高等学校 1 年生 保健体育科学習指導案

1 単元名 大単元「 現代社会と健康 」 小単元（ がんの治療と回復 ）

2 単元について

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって、健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。

このため、本内容は、我が国において現代の健康課題がみられること、健康の考え方が変化していること、健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わること、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること、生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること、喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること、精神疾患の早期発見や罹患後の対策が必要であることなどを中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	現代社会と健康について、健康を保持増進するための一人一人の深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	現代社会と健康について保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることについて関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

4 生徒の実態と指導観

〈生徒の実態〉

学級の雰囲気は明るく授業にも積極性をもって取り組んでいる様子が見られる。一般的に健康であるためがんについて漠然とした知識はあり、これまでの学習でがんの仕組みや予防という面については学習しているが、がんのケア、情報の集め方や共生ということについては理解できていない生徒が多い。

〈指導観〉

がんについては仕組みや予防について学習し知識としては身に付いているだろうが、自分の身に起こりうる病気という認識が薄い。そのため実際の事例を用いて治療法や患者とその家族の実態を知り、また AYA 世代や罹患率グラフも用いて自分自身がどこに当てはまるのかを理解し、がんを自分事として捉えられるようにしていきたい。そして、生涯を通じて健康であるために正しい情報から知識を身に付け、がんとその患者との共生をしていく態度を育てたい。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	健康の考え方と成り立ち			

2	私たちの健康の姿			
3	生活習慣病の予防と回復			
4	がんの原因と予防			
5	がんの治療と回復 ・がんの治療法 ・緩和ケアとがん患者の生活の質 ・がんの社会的対策 がんについての情報の活用 ・がん患者への理解と共生		○	
6	運動と健康			
7	食事と健康			
8	休養・睡眠と健康			
9	喫煙と健康			
10	飲酒と健康			
11	薬物乱用と健康			
12	精神疾患の特徴			
13	精神疾患の予防			
14	精神疾患からの回復			
15	現代の感染症			
16	感染症の予防			
17	性感染症・エイズとその予防			
18	健康に関する意思決定・行動選択			
19	健康に関する環境づくり			

7 本時の展開

① 本時の目標

- ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。
- ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる

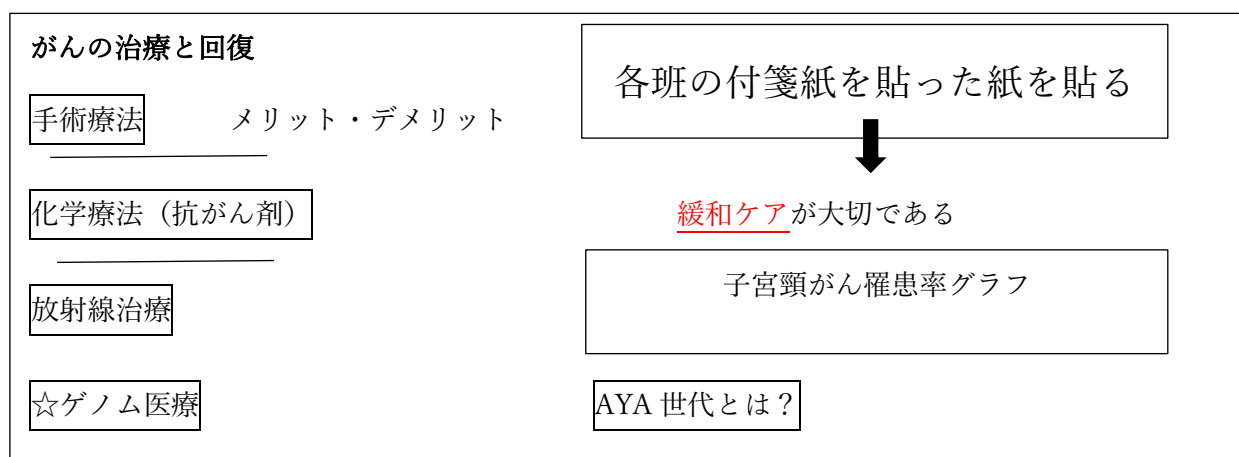
②展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
導入 8分	1.中学校がんの学習（がんの仕組み）を復習する。	中学校で学んだ「がんのしくみ」について、図を用いて説明する。 ○実際の事例を用いてより実情を理解し自分事として捉えられるようにする。
展開 25分	2.【がんの治療法について理解しよう】 ○手術療法・化学療法（抗がん剤など）・放射線治療について理解し、それぞれのメリットデメリットも知る。 ○新たな療法として遺伝子療法としてゲノム医療のことを知る 3.【緩和ケアとがん患者の生活の質について理解する】	○がんの患者に対する治療法にはどのようなものがあるのかを事例を用いて説明する。 （がんの原因と予防）と合わせて、ある元がん患者の方のがんになってから完治までの事例をみなから考えていく。 ○教科書 p.16、資料 1[がんの治療の 3 つの柱]を用いてそれぞれの詳細を示していく。 ○ゲノム医療について p.18 [3[ゲノム医療]を使用し、概要を説明する。
	発問 1：もし自分や家族ががんになったら何が心配？不安？ まず個人で考える その後グループで共有(3分) 予想される生徒の反応：お金、手術方法、副作用、仕事 ○それぞれのグループで出された不安要素を聞き、がん患者の抱えるであろう心理を理解し、その上で緩和ケアが必要であることを理解する。 4.【がんの社会的対策について知る】 ○がん対策基本にもとづく「がん対策推進基本計画」によって、がん予防普及啓発だけでなく、がん検診やゲノム医療などの取り組みがあることを知る。	
		○1 班 2.3 人編成の計 6 班で行う。 ○KJ 法を用いて生徒に付箋を数枚配りまず個人で最低三枚は書き、その後グループに A4 用紙を配り付箋を同じか異なるかで分ける活動をさせていく。（黒板に貼り付けるため文字は大きくペンで書いてもらう） 机間指導し、まとめ方のアドバイスをする ○p.16 資料 2[がんの治療と緩和ケア]、p.17 資料 3[専門家のチームによる支援]を示しながら、緩和ケアの必要性を説き、これらが患者とその家族の生活の質を高めることを伝える。 ○がん検診だけでなく、健康診断で異常が見つかり、がんの早期発見・早期治療へと繋がるケースが多いため定期的な健康診断の重要性を伝える。

○AYA(Adolescent and YoungAdult)世代とは何か自分たちががんになる可能性について理解する。	○AYA 世代については、p.17 の則注⑧を使用して説明し、「子宮頸がんの罹患率グラフ」を用いて実際に示して見せる。(黒板に貼る)また 20 代女性の罹患率は約 15%で約 10 人に 1,2 人罹患するため、近い将来罹患する可能性は大いにあることを喚起する。
発問 2：・がん患者の食事には香辛料が効果的・アガリスクタケはがんを良くする ・ニンニクでがんが治る・放射線治療の代わりにビタミン C を摂取しよう これらの情報を聞いて皆さんどう思いますか？信じますか？	
個人で考える 予想される生徒の反応： ・信じるかもしれない・怪しく感じる・本当か確かめる ○これらは正しくない情報いわゆるフェイクニュースであることを知る。 ○正確かつわかりやすいがんに関する情報は「がん情報サービス」が提供していることを知る。 5.【がん患者への理解と共生について理解する】	○個人で考えさせる ○クラス全体に問いかけ、意見を聞く ○生徒から出た意見をクラス全体で共有する ○正確な情報でないことを示し、フェイクニュースについて理解させる。 ○昨今ではなんでもネットで情報を得ることができる時代であるがその分フェイクニュースのような不確かな情報も混在していることから、信頼性の高い情報を活用することの重要性を説く。また教員や有名な人からの情報といえどもそれを鵜呑みせず、時には疑うことも大切であることを伝える。
発問 3：がん治療から復帰してきた生徒とそこに関わる周りの生徒へ向けて、該当生徒のがんによる影響をあなたならどう説明しますか？	
○グループで行う ○教師役、周りの生徒役となりそれぞれ回して演習していく 予想される生徒の反応：がんによる治療で激しい運動ができないことを伝える、治療の頑張りを周知し皆と一緒にできるように少しずつ授業に参加している	○該当生徒が後遺症により持久走に参加できないことを例としてどう対応していくべきかを問う。 <u>難しい事例であるためまずお手本として教師が一例を見せる</u> ○机間指導し生徒の心情についてアドバイスす

	○がん患者のことやその人が受けている治療について正しく理解し、誰もが暮らしやすいしくみを整えていくことが求められていると理解する	る。 ○いくつかの班を指名し発表させる ○この演習に正解はなくどんな対応をしていくべきかをみんなで考えていくことが重要であると伝える。 ○演習を踏まえた上で、がんというものを異様なものとせず理解し共生していくことを、一人一人が目指そうと説く。 ◇今までの知識からがんに対する自分の考えをまとめ、周りとの意見を共有して理解を深めようとしている。〈思考①〉 〈A 評価とするポイント〉 ・今までの学習を踏まえて、自分の考えをまとめ、積極的に意見交流し理解を深めようとしている。 〈C 評価とするポイント〉 今までの学習を踏まえて、自分の考えがまとまっておらず、周りとの意見交流ができていない。 〈努力を要する生徒の手立て〉 ・前回の復習を振り返ってもらい、今後自分ががんとどう向き合っていくべきなのかどうかを考えてもらうよう個別指導を行う。
ま と め 分	6.本時のまとめをする ○がんと向き合うために、がんと共生するために自分はどのようにしていくか考える 7.本時の振り返りをする ○授業を振り返り、自分の考えをノートに記入する	○がんに罹患しても人生は続いていくためどうがんと向き合っていくのか、自分自身はどう共生していくのか考え、意見をノートにまとめる ○グループ内で意見を共有する

8 板書計画



フェイクニュースの例

共生が大切

まとめ

- ・ 治療はどんなものがあったか
- ・ 緩和ケアをして生活の質を高める
ことが必要
- ・ 正しい情報を得る 〈〉
- ・ 共生していこう

9 資料



現代社会と健康 がんの治療と回復

年 組 番 名前

1. がんと向き合い、がんと共生していくためにはどうすればいいのか？考えたことを書き出してみよう。

2. 本時の授業を通しての感想